

マチへ レトロを 求めて

特集 クリームソーダが恋しくて



11

あるだけで
魅せる存在感



江戸時代のマンガのようなもの
上・中・下を揃えると一枚の絵になる
仕掛けも面白い!

これは竹久夢二の
版画作品だよ



ちりめん本は手触りのなめらかさもいい



Yoshio Kawashima



舒文堂
河島書店



10

Chique

おばあちゃんに
ありそうなレトロ
グラスや調理器具
などがたくさん



祖母のブランドをお孫さんが引き継いで
復刻させたという「竹日の丸印」
の買い物バッグ



レトロは
カラフル!

Muramoto
Shiki



クリームソーダは全11種。クリームソーダのグラスは、
昭和から変わらない専用グラス。アイスが上手に乗る
ように計算されたスグレモノ



Yoshio Sakahara

店内には昭和のカメラがズラズラと並ぶ



坂梨
写真機店

高級コンパクト
フィルムカメラ!



価格が跳ね上がった
貴重なLEICAのレンズも



「写ルンです」は今のレトロ人気を
代表するひとつ。現像の他にデー
タで仕上げてもらうこともできる



「写ルンです」で
撮影した写真



昭和雑貨とクリームソーダのお店 **Chique**

- ☎ 096-342-6338
- 📍 熊本市中央区内坪井町6-1
- 🕒 14:00→17:00 ④ 月・土・日曜、祝日
- 🍷 2階・喫茶17席
- Instagram = @suzurandou_chique_official

じよふんどう

舒文堂河島書店

- ☎ 096-352-1701
- 📍 熊本市中央区上通町11-2
- 🕒 10:00→19:30 ④ 火曜
- ホームページ = 「舒文堂河島書店」で検索

しゃしんきてん
坂梨写真機店

- ☎ 096-354-2151
- 📍 熊本市中央区上通町9-12
- 🕒 9:00→18:30 ④ 日曜
- ホームページ = 「坂梨写真機店」で検索

マチを歩いていると、そういえば、若者がフィルムカメラを手に撮影しているのを目にする。そんな人たちが吸い込まれていくのが「坂梨写真機店」だ。建物の上に目を向けると、黄色と赤の「カメラの坂梨」の看板。6年前にリニューアルした際、明治5年の創業当時の正式名称を全面に掲げたが、馴染みのある看板もそのまま残したそう。「近ごろは、若い人たちがフィルムカメラの現像を訪れるんですよ。そう話してくれたのは、6代目・坂梨予司さん。現像したデータをLINEで送って……フィルムとデジの融合って感じですね」と笑う。ショーケースには、昭和の時代に誕生したフィルムカメラが並び、もちろん現役。多種多様なフィルムも扱う。今の景色をちょっと昔のように表現するフィルムの世界は、ノスタルジックさが相まってアートに。何を通すかで見えてくる景色が変わるなんて、素敵なことだ。同店ではレトロなカメラが市場よりちょっとお得に手に入れられることもあり、写真好き、カメラ好きに知られたお店。新しい世界を見たい人は、ぜひ足を運んでほしい。

「日本の印刷技術がどれだけ優れていたかが分かるんです。これ、全て版画。特に、彫り職人の技術が高く、細かなルビ(ふりがな)まで彫っているんですよ」と河島さん。見れば見るほど、その技術力の高さに驚く。そして、令和の時代に、新品かのような美しい状態に残っていることに疑問が浮かぶと、「昔の人は、モノを大事にしていたこと……」とひと言。胸が、じーんとした。

続いて訪れた「舒文堂河島書店」は、資料館級の古書が並ぶ老舗店。明治10年創業、150年近く、変わらず並木坂通りで店を構えている。老舗・古書100数店が高そう……恐る恐る足を運ぶと、4代目・河島一夫さんが、35000点の中から、次々と面白い古書をすすめてくれた。奥のガラス棚から出てきたのは江戸時代のマンガのようなもの。なんとカラー! 表紙を並べると、一つの絵が完成する点も素晴らしい! 他にも、海外向けに明治時代に発行された小泉八雲の「日本お伽噺」や熊本の人物が題材になった「孝女白菊」など。

店主の村本詩子さんは、「日本企業ものが大好き! その歴史、技術力が大好き!」なマニアさん。語り出したら止まらず、「一ひつこの商品に込められた物語を聞くのがとにかく面白い。カラフルな色合い、北欧デザインのようなものもある。特にグラスなどの生活雑貨は、ADERIAや佐々木ガラスなど、当時のものがスラスラと並んでいる。目覚めに一杯の水をこのグラスで飲むだけでも、1日が明るくなりそう。そんなアイテムばかり。気づいたら日が暮れそうになるからご注意ください。」

とは言いつつ、まずは、並木坂からちょっと(10分くらい)歩いた「Chique」へ。レトロといえば昭和レトロ! ここは外せない。2階建ての古民家に近づく、窓からカラフルな雑貨がちりり。玄関に足を踏み入れた途端、令和から昭和へタイムスリップをしたような気分になる。実はこちら、昭和レトロショップ「すずらん堂」の屋号で昭和レトロ雑貨の販売を行い、あんなドラマやこんな映画の小道具として大活躍している、知る人ぞ知る一軒だ。10年前にオープンし、じわじわと人気を高めた。今では2階、昭和レトロの象徴「クリームソーダ専門店」になっている。

は曇天。梅雨、真っ只中の熊本。久しぶりに訪れたマチは、そんな天気も何のその。足を運ぶだけで胸が高鳴る……。マチには、そんな魅力がある。私たちがマチを訪れたのは、「近ごろ、レトロが注目されているらしい」というウワサを耳にしたから。レトロと言えばマチには、老舗店も古着店も多い。レトロだらけ。特に並木坂へ上ると、それが豊かになる。胸が高鳴るものに囲まれているなら、自然と暮らしたくなる。よし、レトロを探しに行こう! というわけだ。

「空」は曇天。梅雨、真っ只中の熊本。久しぶりに訪れたマチは、そんな天気も何のその。足を運ぶだけで胸が高鳴る……。マチには、そんな魅力がある。私たちがマチを訪れたのは、「近ごろ、レトロが注目されているらしい」というウワサを耳にしたから。レトロと言えばマチには、老舗店も古着店も多い。レトロだらけ。特に並木坂へ上ると、それが豊かになる。胸が高鳴るものに囲まれているなら、自然と暮らしたくなる。よし、レトロを探しに行こう! というわけだ。